

高知県感染症発生動向調査(週報)

2010年第23週〔6月7日～6月13日〕

高知県衛生研究所 高知県感染症情報センター
TEL:088-821-4961 FAX:088-825-2869
http://www.kenkou.med.pref.kochi.lg.jp/eiken/
E-mail:kansen@ken4.pref.kochi.jp

※ 検査速報 (第24週分) について ※

現在、県内で手足口病が流行しているが、第20週～22週に病原体定点医療機関(小児科)から臨床診断名手足口病で検査依頼のあった37人中24人からエンテロウイルス71 (EV71) が検出された。このうち1名の患者は無菌性髄膜炎及び脳炎を発症していた。EV71は他のウイルスより重症化する傾向があり、**中枢神経系の合併症を引き起こす割合が高い**ことが明らかとなってきたため、同ウイルスが流行している期間中は、手足口病発症児の経過を注意深く観察し、合併症に対する警戒を行う必要がある。なお、急性脳炎を合併した場合には、5類感染症全数届出疾患として報告が必要である。

感染経路は飛沫感染、接触感染、糞口感染であり、保育園や幼稚園などの乳幼児施設における感染予防は「手洗いの励行」と「排泄物の適正な処理」が基本となる。主要症状が回復した後もウイルスの便への排出は3～4週間にわたって認められるので、感染予防対策の徹底が必要である。

県内情報

○ 患者情報総評

注意報発令疾患：手足口病 注意報発令疾患：水痘、ヘルパンギーナ

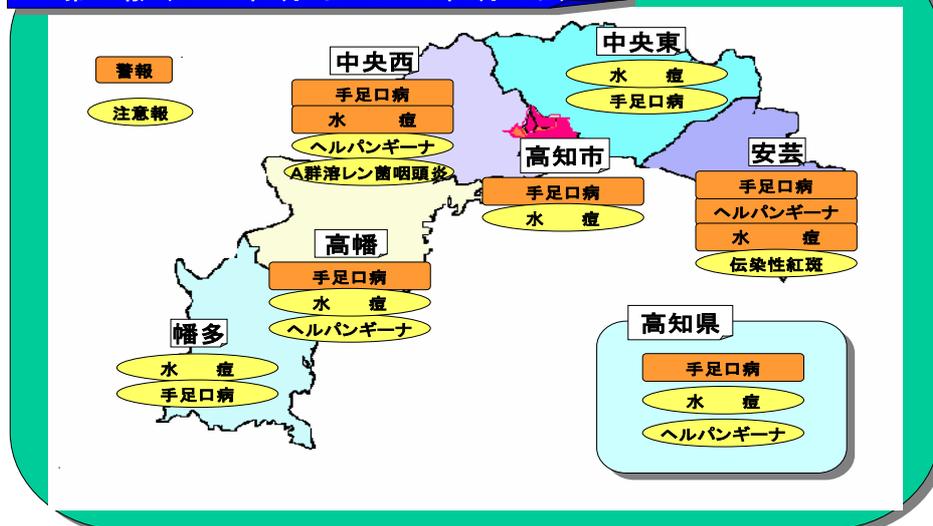
- ・ 晴れの天気が続いたが、13日には雨となり平年より9日遅く梅雨入りとなった。
- ・ 手足口病(高幡：警報→警報，中央西：警報→警報，高知市：警報→警報，安芸：注意報→警報，中央東：注意報→注意報，幡多：注意報)は中央医療圏でやや減少したが，その他の地域で増加し，総数は再び増加に転じ警報値を超した。
- ・ 感染性胃腸炎は安芸と高幡で増加したが，その他の地域で減少し，総数は前週の約6割に減少した。
- ・ 水痘(中央西：警報，安芸：注意報→警報，中央東：注意報，幡多：注意報→注意報，高幡：注意報，高知市：注意報→注意報)は高知市でやや減少したが，その他の地域で増加し，総数は前週の約1.6倍に増加し再び注意報値を超した。
- ・ ヘルパンギーナ(安芸：警報→警報，中央西：注意報→注意報，高幡：注意報→注意報)は中央東で増加したが，高知市，高幡，幡多で減少し，総数は横ばいであった。

上位疾患構成図



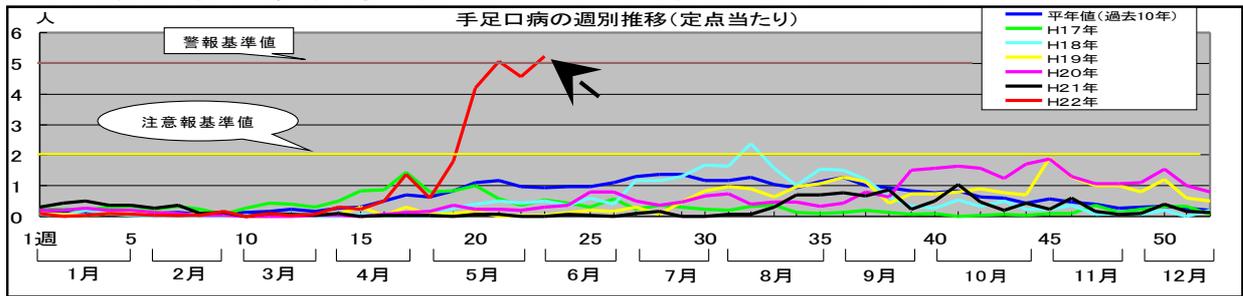
地域別感染症注意報・警報発生状況

第23報 (2010年6月7日～2010年6月13日)



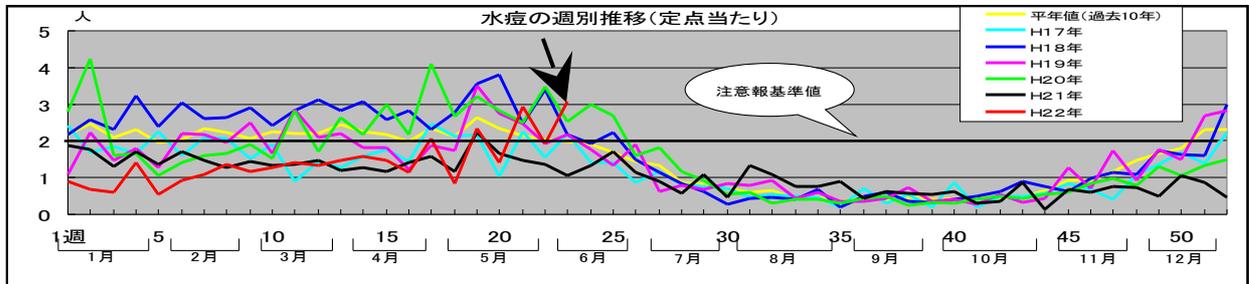
手足口病：今週5.23（注意報値：2.00 警報値：5.00）

地域毎にみても、全ての地域で注意報値を超し、中央東と幡多を除く地域では警報値を超している。特に高幡では、第19週以降急増を続けており警報値を大幅に超す（19.50）流行となっている。過去10年の同時期と比較して、最も多い報告となっており今後も注意が必要である。



水痘：今週3.07（注意報値：2.00 警報値：4.00）

今年に入り、4月頃までは例年と比較して低いレベルで推移していたが、その後大幅な増減を繰り返しながら増加傾向となり、今週は過去10年の同時期では平成13年（3.13）に次ぐ報告となった。例年であれば、6月下旬より減少傾向となっており、今後の推移が注目される。



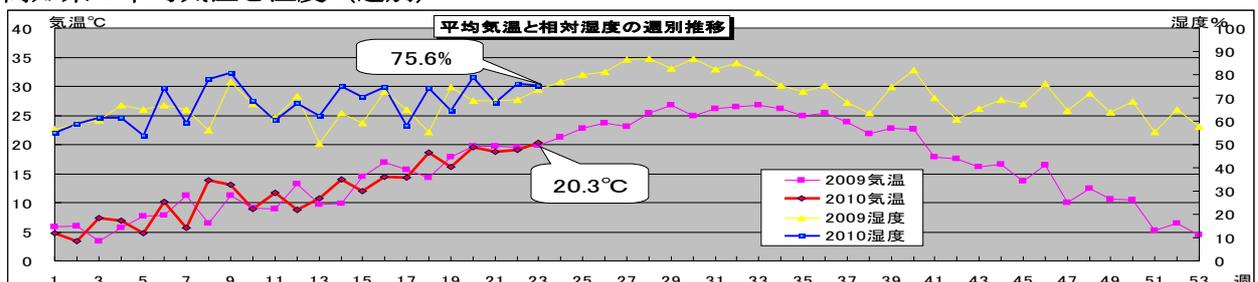
検査情報

週	臨床診断名	患者	地域	ウイルス, 細菌の検出状況
15	手足口病	2歳女	高知市	Enterovirus NT
19	ヘルパンギーナ	3歳男	高知市	Coxsackievirus A5
20	ヘルパンギーナ	1歳男	高幡	Coxsackievirus A5
20	ヘルパンギーナ	1歳男	高幡	Coxsackievirus A2
21	手足口病	2歳男	高幡	Adenovirus 2
21	不明熱	1歳女	高幡	Adenovirus 1
22	肺炎・呼吸不全	4歳男	中央東	Parainfluenza virus 3
22	咽頭結膜熱	2歳男	高幡	Adenovirus 2
22	肺炎	1歳男	高知市	Parainfluenza virus 3
23	急性気管支炎	7ヵ月女	高知市	Parainfluenza virus 3
23	肺炎	1歳女	高知市	Parainfluenza virus 3
23	感染性胃腸炎	5歳男	高幡	Rotavirus group A

○ 全数報告の感染症情報

2類感染症：結核 2例（86歳男）《幡多》（68歳女）《中央西》（今年61例）
 5類感染症：後天性免疫不全症候群 1例（35歳男）《中央東》（今年1例）
 クロイツフェルト・ヤコブ病 1例（77歳女）《高知市》（今年2例）

○ 高知県の平均気温と湿度（週別）



○ 定点からの地域ホット情報

幡多：

《幡多けんみん病院小児科》：感染性胃腸炎の1例（4歳男）はロタウイルス陽性
《さたけ小児科》：膿痂疹 1例（8歳女）

高幡：

《もりはた小児科》：アデノウイルスによる滲出性扁桃炎 2例 手足口病の流行が続く
カンピロバクター腸炎 1例（10歳男）
インフルエンザの1例はB型陽性（広島，岡山方面への修学旅行歴あり）

《大西病院小児科》：感染性胃腸炎の9例中2例はロタウイルス陽性

中央西：

《くぼたこどもクリニック》：帯状疱疹 1例（4歳女：佐川町） 手足口病の1例（2歳男）は津野町
《石黒小児科》：水痘が流行中

高知市：

《けら小児科・アレルギー科》：マイコプラズマ肺炎 2例（9歳男，10歳女）
百日咳の2例は母娘（土佐清水市在住）で，1例（1歳女）は東浜株2560倍，山口株640倍，DPT接種歴あり（3回済み），1例（26歳女）は東浜株2560倍，山口株320倍，DPT接種歴あり（4回済み）

全国情報第21週（5/24～5/30）（<http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>）

2類感染症：結核335例

3類感染症：コレラ1例、細菌性赤痢4例、腸管出血性大腸菌感染症44例（有症者27例、うちHUS 1例）

4類感染症：E型肝炎2例、A型肝炎10例〔*第10～21週の累積報告数は190例（劇症肝炎5例、うち死亡1例）となり、都道府県別では、福岡県26例、東京都25例、広島県22例、兵庫県14例の順に多い。広域アウトブレイクの可能性もあり、引き続き注意を要する。〕、つつが虫病6例、デング熱1例、マラリア1例、レジオネラ症4例

5類感染症：アメーバ赤痢11例、ウイルス性肝炎（B型）2例、急性脳炎5例、後天性免疫不全症候群15例（AIDS 3例、無症候12例）、ジアルジア症2例、梅毒5例、破傷風3例、バンコマイシン耐性腸球菌感染症2例、風しん1例、麻しん8例

報告遅れ：細菌性赤痢1例、腸チフス1例、パラチフス1例、エキノコックス症1例、デング熱2例、ウイルス性肝炎（B型）1例、急性脳炎4例、バンコマイシン耐性腸球菌感染症1例、風しん2例

◆水痘

水痘は水痘・帯状疱疹ウイルス（VZV）の初感染によって発生する急性の伝染性疾患である。VZVの感染力は極めて強く、飛沫感染、空気（飛沫核）感染、接触感染によってウイルスは上気道から侵入する。ウイルス血症を経て、通常は2週間前後（10～21日）の潜伏期間を経て発症し、発疹、倦怠感、発熱を主症状とする。発疹は全身性に掻痒を伴い、紅斑、丘疹を経て短時間で水疱となり、痂皮化する。最初に頭皮、次いで体幹、四肢に出現するが、体幹にもっとも多くなる。数日にわたり新しい発疹が次々と出現するので、急性期には紅斑、丘疹、水疱、痂皮のそれぞれの段階の発疹が混在することが特徴である。通常は小児期に好発する予後良好な疾患であるが、細菌の二次感染（敗血症を含む）、髄膜脳炎、小脳失調、肺炎、肝炎などの合併症がある。成人あるいは妊婦が発症すると重症となる場合が多い。有効な抗ウイルス薬が開発され予後は改善したもの、現在においても免疫抑制状態下に発症すると時に致死性である。水痘に罹患し治癒した後でも、ウイルスは終生その宿主の知覚神経節に潜伏感染し、免疫抑制状態あるいは高齢化に伴って再活性化し帯状疱疹を発症する場合がある。

感染症発生動向調査では、全国約3,000カ所の小児科定点からの報告に基づいて水痘をはじめとする各種小児科疾患の発生動向を分析している。2010年第21週の水痘の定点当たり報告数は2.99（報告数9,065）と大きく増加した。2000年以降の同時期の報告数としては最も高い値となっている。都道府県別では宮崎県（5.3）、長野県（4.5）、新潟県（4.3）、福井県（4.2）、福岡県（3.9）、三重県（3.8）、鹿児島県（3.8）、沖縄県（3.8）の順となっており、香川県を除く46都道府県で前週と比較して増加がみられた。2010年第1～21週の定点当たり累積報告数は36.4（累積報告数110,403）であり、男女別では男性51.9%（57,265）、女性48.1%（53,138）と男性がやや多く、年齢群別では2～3歳36.4%（40,148）、0～1歳25.4%（28,016）、4～5歳24.8%（27,421）の順であり、5歳以下で全体の9割近くを占めているのは例年と同様である。

水痘には世界に先駆けて日本国内で開発されたワクチンがあるが、予防接種法の定期接種ではなく、任意接種としての接種率は低く、国内における蔓延状況をコントロールするには程遠いと言わざるを得ない。特に保育施設等の乳幼児の集団生活施設では、毎年のように集団発生が繰り返されている。基本的には予後良好の疾患と言われているが、免疫抑制状態にある者への感染伝播や、治癒後の将来的な帯状疱疹の発生等を考慮するならば、現状の患者発生数を抑制する必要がある。そのためにはワクチン接種率の向上が求められる。今後とも水痘の発生動向には注意が必要である。

定点名	医療圏 疾病名	安芸医療圏	中央医療圏			高幡医療圏	幡多医療圏	計	前週	全国(22週)	高知県(23週末累計) H22/1/4~H22/6/13
			中央東	高知市	中央西						
内科・小児科	インフルエンザ					1		1 (0.02)	1 (0.02)	538 (0.11)	2,546 (53.04)
小児科	咽頭結膜熱			1				2 (0.07)	3 (0.10)	977 (0.32)	36 (1.20)
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		2	16	7			25 (0.83)	14 (0.47)	5,596 (1.85)	489 (16.30)
	感染性胃腸炎	20	25	56	9	15	6	131 (4.37)	213 (7.10)	21,792 (7.19)	6,363 (212.10)
	水痘	8	26	25	14	5	14	92 (3.07)	58 (1.93)	6,002 (1.98)	986 (32.87)
	手足口病	10	20	59	19	39	10	157 (5.23)	137 (4.57)	5,415 (1.79)	739 (24.63)
	伝染性紅斑	2	1	6				9 (0.30)	5 (0.17)	1,867 (0.62)	68 (2.27)
	突発性発疹			5	1	2	2	10 (0.33)	21 (0.70)	1,687 (0.56)	253 (8.43)
	百日咳			3				3 (0.10)	2 (0.07)	214 (0.07)	25 (0.83)
	ヘルパンギーナ	10	13	20	11	4	2	60 (2.00)	60 (2.00)	2,930 (0.97)	469 (15.63)
	流行性耳下腺炎	1	3	2				7 (0.23)	7 (0.23)	4,709 (1.55)	112 (3.73)
	RSウイルス感染症		1					1 (0.03)		241 (0.08)	760 (25.33)
	眼科	急性出血性結膜炎									8 (0.01)
流行性角結膜炎				1				1 (0.33)	2 (0.67)	439 (0.65)	29 (9.67)
基幹	細菌性髄膜炎									10 (0.02)	4 (0.57)
	無菌性髄膜炎								1 (0.14)	25 (0.05)	7 (1.00)
	マイコプラズマ肺炎								2 (0.29)	228 (0.50)	31 (4.43)
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)			1				1 (0.14)	1 (0.14)	9 (0.02)	9 (1.29)
計 (小児科定点当たり人数)	51 (25.50)	91 (13.00)	195 (17.55)	61 (20.33)	66 (32.75)	36 (7.20)		500 (16.59)			
前週 (小児科定点当たり人数)	32 (16.00)	88 (12.57)	272 (24.24)	62 (20.67)	40 (20.00)	34 (6.60)			527 (17.35)	52,687	12,928 (396.38)

定点当たり

第23週

定点名	医療圏 疾病名	安芸医療圏	中央医療圏			高幡医療圏	幡多医療圏	計	前週	全国(22週)
			中央東	高知市	中央西					
内科・小児科	インフルエンザ					0.25		0.02	0.02	0.11
小児科	咽頭結膜熱			0.09			0.20	0.07	0.10	0.32
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		0.29	1.45	2.33			0.83	0.47	1.85
	感染性胃腸炎	10.00	3.57	5.09	3.00	7.50	1.20	4.37	7.10	7.19
	水痘	4.00	3.71	2.27	4.67	2.50	2.80	3.07	1.93	1.98
	手足口病	5.00	2.86	5.36	6.33	19.50	2.00	5.23	4.57	1.79
	伝染性紅斑	1.00	0.14	0.55				0.30	0.17	0.62
	突発性発疹			0.45	0.33	1.00	0.40	0.33	0.70	0.56
	百日咳			0.27				0.10	0.07	0.07
	ヘルパンギーナ	5.00	1.86	1.82	3.67	2.00	0.40	2.00	2.00	0.97
	流行性耳下腺炎	0.50	0.43	0.18				0.23	0.23	1.55
	RSウイルス感染症		0.14					0.03		0.08
	眼科	急性出血性結膜炎								
流行性角結膜炎				1.00				0.33	0.67	0.65
基幹	細菌性髄膜炎									0.02
	無菌性髄膜炎								0.14	0.05
	マイコプラズマ肺炎								0.29	0.50
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)			0.20				0.14	0.14	0.02
計 (小児科定点当たり人数)	25.50	13.00	17.55	20.33	32.75	7.20	16.59			
前週 (小児科定点当たり人数)	16.00	12.57	24.24	20.67	20.00	6.60		17.35		

2010年週報推移(定点当たり)

